

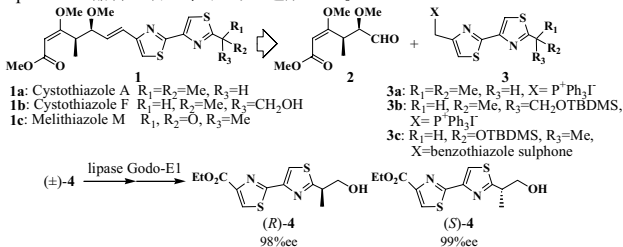
31【P1】I-009

Cystothiazole F と Melithiazole M の全合成と絶対構造の決定

○佐々木 貴光¹, 加藤 恵介¹, 秋田 弘幸¹ (東邦大薬)

<目的>Cystothiazole 類及び Melithiazole 類は、強い抗菌活性を有する抗生物質である。先に我々は 4-yne-1-ol の Pd(II)触媒下の環化-カルボニル化反応を¹⁾を鍵反応とした Cystothiazole A の全合成を報告している²⁾。今回、Cystothiazole F、Melithiazole M の全合成を行いその絶対構造を決定する。

<結果>(±)-**4** に対する lipase による不斉アセチル化を基盤として高光学純度の **4** の両鏡像体(*R*)-**4** と(*S*)-**4** を得た。両鏡像体からそれぞれ(*R*)-及び(*S*)-ホスホニウム塩 **3b** を合成し、**2** と縮合することにより Cystothiazole F の 2 種のジアステレオマーを得た。一方、Melithiazole M の合成では、*E* 選択性の向上を目的として **2** と **3c** による one-pot-Julia 縮合を行い、目的を達成した。



1) Kato, K. Nishimura, A. Yamamoto, Y. *Tetrahedron Lett.*, 2001, 42 4203

2) Kato, K. Nishimura, A. Yamamoto, Y. *Tetrahedron Lett.*, 2002, 43 643